

みかんの丘 だより

第22号 河内福祉村

発行 社会福祉法人 陽光「みかんの丘」

- ・特別養護老人ホーム・デイサービスセンター
- ・居宅介護支援事業所・ショートステイ
- ・地域交流センター「夢見館」



2015年1月



写真：熊本市西区役所 芳野分室
室長 北野洋治様 提供



New year's greetings 2015

年頭のごあいさつ

みかんの丘 施設長

池尻 久美子



群れをなして安泰や平和をもたらす大変縁起のよい動物といわれます。また「未」の言葉は未熟な状態をも示し、今後の発展の要素を強く持っているといわれています。

今年も未年の由来の如く、皆様や地域との和につとめ群れとなり様々なことが行えるように、またみかんの丘が皆さまのお力、ご理解のもとエビデンスある自立支援介護を実践し続け「元気になる場所」として一層認知され、今後発展していけるように努力してまいりますので、更なるご支援を心からお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご多幸とご健康を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より、ご利用者様、ご家族様、地域の皆様、事業所等、関係各位の方々からの温かいご支援と、協力を賜り、無事新年を迎えることができたことを心より御礼申し上げます。

今年は「未年」。干支「未」は「祥」の字の古体で、「善」や「義」の文字として使われるそうです。また古来より「羊雲が出ると吉祥事がある」、「朝、羊の群れに会うと良いことがある」などと言われ、

「元気になる場所」

ココロもカラダも

地域のみなさまに支えられ、
みかんの丘も開設十一年目。
みんなが元気になる場所
「ここからだも」を
コンセプトに本年も明るく、
頑張ります！

スタッフ一同



丹生 幸子さん

生まれ：昭和6年4月5日

今年の抱負：元気に過ごしたい

一言：本当にここまで元気に過ごして来られたのは、家族や周りの人のおかげです。感謝しています。

周りの人を気にかけてくれる優しい方です。写真に写っているちぎり絵は丹生さんが作成されました。細かくちぎられ丁寧に作業されていました。



荒木 希雄さん

生まれ：昭和6年2月14日

今年の抱負：元気に過ごしたい

一言：趣味は野菜や花を育てることが好きです。今年もよろしくお願いします。

奥様からみた希雄さんは、几帳面で優しい人なのだそうです。デイサービスに小さな図書館があるのですが、よく本を読みながら穏やかに過ごされています。読みきるのも時間の問題！

社会福祉法人 陽光 みかんの丘

〒861-5348 熊本市西区河内町白浜字堀切 1440-2 TEL 096-278-4055 FAX 096-278-4056 担当：江副

基本ケアを徹底して、良好なリズムを保ち機能向上を目指す！

「運動」

基本歩行を目指す
訓練の実施

「排泄」

自然排泄
下剤は使わない

「食事」

1日 1500kcal
常食化への取り組み

「水分」

1日 1500ml 以上
の水分摂取

現在、基本ケア（水分・食事・便秘・運動）を行うことで認知症状の改善は見られています。年度の残り3ヶ月は、研修を通して身に付けた知識で常食化への取り組みを行っていきます。オムツ外しまで残り1名でしたがこの度、薬の減量と基本ケアの徹底でオムツを外すことができました。

基本介護の徹底と環境整備

強化月間を設け、リーダーによる毎日のフロア巡回を実施しています。ご利用者の身なりや環境の整備などについて、気づきや改善策を指摘しあうことで、徹底へとつながっています。今後も自覚と責任を持ち、基本介護・環境整備徹底に努めます。

稼働率 98%以上を目指す

稼働率98%は達成しましたが、肺炎での入院者数が6名、骨折での入院者が1名となりました。また、肺炎での入院者の多くは、水分摂取の困難な方が多かったため、今後、水分ケアをどう工夫していくか、カンファレンスを開いて計画の見直しを行っていきます。

**科学的根拠による
要介護状態の改善**

【特別養護老人ホーム】

／ 本年の抱負 ／ 特養 主任補佐 山田 優

今年の抱負は、特養に入所すると地域とのつながりが少なくなるという印象を払拭し、地域行事への参加を積極的に行う事で、地域の中に居続ける特養にすることです。

“トリム”や“みかんの丘通貨”で、楽しみながらリハビリ♪



4 月から開始した自立支援の取り組みも早いことで、9カ月が過ぎました。

現在では、トリムの数も35種類を超え、ご利用者の皆様にも「楽しんでリハビリ」を実施して頂いています。また、「みかんの丘通貨」の相乗効果で、通貨を貯める為にトリムを行い、自然に元気になるサイクルを生み出しています。

8 月からは「要介護者の自立支援にもつと力を注ごう」と全てのご利用者に対する「個別ケア計画書」を再作成しました。これは、ご本人・ご家族様から在宅で困りのことを聞き取りし、3カ月を目安に個別目標を立て、在宅生活を維持していく為に、デイサービスで何ができるのかを考察した上、1枚の様式にまとめたものです。この「個別ケア計画書」の内容を業務プランとして実行することで、今までの「ただ通うだけのデイサービス」から「目的のある機能的なデイサービス」に変わったと言えます。

／ 本年の抱負 ／ デイサービス主任 河津 磨和

今後、デイサービスの位置づけ、役割も大きく変わってくると言われている社会で、私たち介護従事者が何を考え、支援していかなければならないのかを明確にしていきたいです。

自立支援を目指す「みかんの丘」、
今年の取り組みと成果のご報告。

高齢になると、一度リズムを崩すと再度良好なリズムを取り戻すのが難しくなります。ご本人の気持ちも大事ですが、専門の職員が、本来のリズムへ戻るよう促す取り組みが重要です。また、ご利用者の皆様はそれぞれの夢をお持ちです。その夢の実現のサポートを目指し、スタッフ一人一人が日々創意工夫を重ね、その基礎となる機能向上に、全身全霊で挑んでいます。少しづつではありますが、その成果が現れてきています。平成26年の私たちの取組みと、その成果をご紹介します。

【「デイサービス」】

年頭のごあいさつ

みかんの丘
理事長
金澤 剛

明けましておめでとうございます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。本年は未年。古く中国の前漢時代に生まれた最古の部首別漢字字典である「説文解字」によると未は味と記し、果実が熟して滋味が生じた状態を表すと記されています。

「社会福祉法人陽光みかんの丘」が生まれ、11年目にさしかかる年です。又、自立支援型介護実践施設の確立をメインスローガンとし活動を本格化させて3年目にさしかかろうとしています。さて、生まれた時は洋々たる未来を夢見て船出するのは常です。そしてその後の航海は時として羅針盤をなくしたり、方針に狂いが出たりするのも常です。しかし私どもは3年程前今後の超高齢化社会に備えた介護のあり方として「自立支援型介護の実践」を掲げ「施設にあれば元気になれる」を合言葉に様々な活動をし、その結果、全国に存在を知られる施設になることができました。この熟して滋味が出始めた力を本年は地域に向けた活動に注ぎたいと思っております。

「K」さんの成果



「K」さんは日中ベッド上で過ごす事が多く、水分も取れていない状況でした。そのせいか食事の居眠りも頻繁にみられ、排泄面では介助を必要としていました。そこで、水分摂取のケアを中心に心がけたいしました。

今では、職員との会話が增えたことで信頼関係が築け、話の合うご利用者も見つけコミュニケーション機会も多く得られています。その為、日中の離床時間が増え、毎朝の体操にも参加されています。水分摂取量も増えたので、夜間も良く眠られています。また、排泄面では、排尿に関してはご自分でされるようになりました。

「M」さんの成果



日中はベッドに横になっている事が多く、水分もなかなか入らないので、はっきりと目を覚ましている時間が少なかった「M」さん。食事未摂取が続き、栄養補助食品でどうにか気力を保っている状態でした。現場職員、相談員等が参加する会議の場で「何とか元気になってほしい」と服用されている薬の見直しから行いました。

今では、副作用の影響が解消されたのか日中の離床時間が増え、本人さんの訴えも聞かれるようになり、食事でも少しずつ摂取されています。毎朝の体操にも参加し活気が戻ってきました。今年はもっと食事を楽しんでもらえるような企画も考えていきます。